

矢田西小学校



所在地 〒546-0024
東住吉区公園南矢田2-15-43

電話 06-6699-1600

URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e741701>

校長名 赤坂 寛臣



標準服 無 集団登校 無



学校概要

①学校教育目標

人間尊重の精神を基盤にした、人間性豊かな子どもを育成する。

(目指す子ども像)

【がんばる子】

・基本的な学力を身につけようとする子ども

【ともに生きる子】

・人権を尊重し、行動できる子ども
・違いを認め合い、ともに生きる子ども

【かがやく子】

・自分の良さを発揮する子ども

● 運営に関する計画

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を行い、防災・減災教育を充実させます。

○安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練にて計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を児童が理解できるようにします。

○道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童の育成をめざします。

○人権を尊重する教育を推進し、学校行事「人権デー」を年1回実施します。

○学校図書館の利用を活性化させるため取り組みます。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して、個に応じた指導を実施します。

○土曜授業にて授業公開を行います。また、保護者・地域が参加できる取り組みも土曜授業で行います。

○英語教育の深化・充実を図ります。

○ICTを活用した教育の推進を図ります。

○世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き、協働していこうとする多文化共生教育を推進します。

○健康に対する課題を考え、健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、手洗い、うがい、早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう指導します。

○なわとびやかかけあし週間などの取り組みを通して、目標を立てることなどで進んで体力づくりすることを推進します。

○中学校進学への不安軽減のために6年生が中学校の行事に参加します。また、理科の指導においては中学校教員による授業を実施します。

● 体力・運動調査結果

種目別平均値	種目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
	男子	14.26	17.47	30.00	41.89	49.37	9.36	160.16	19.37	51.53
	女子	13.26	13.26	31.58	34.63	35.89	9.92	149.42	12.05	49.28

男子の、50m走、立ち幅とびは大阪市平均、全国平均ともに上回りました。女子の立ち幅とびは、大阪市平均、全国平均ともに上回りました。男女とも、握力、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、ソフトボール投げで大阪市平均・全国平均と比べて下回っています。

平成26年度から29年度まで、体育科の研究に取り組んできました。跳び箱運動、鉄棒運動、器械・器具を使った運動遊びなどを重点的に取り組み、指導法について研究してきました。

また、運動委員会を中心に2学期には、ランニング集会とランニング大会、

● 児童数・学級数

平成30年5月1日現在

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	38	39	34	28	36	40	215
学級数	2	2	1	1	1	1	8
特別支援学級							4

● 学力調査結果

	国語A	国語B	算数A	算数B
平均正答率 (%)	62	46	65	31

○各教科とも大阪市平均、全国平均を下回っており、昨年度と比較するとほぼ横ばいです。また成績上位層から下位層まで幅広く分布しています。

○以前は自尊感情が大阪市平均、全国平均と比較して低いことが課題でしたが、様々な学校での取り組みの結果、今年度も全国平均を上回り、自己肯定感の高まりが見られます。

【国語】「話すこと・聞くこと」については、大阪市平均に近い正答率であるが、「書くこと」「読むこと」「言語事項」については、課題がみられました。そこで本年度より研究教科を国語科とし取り組みをすすめています。読解したことをもとに、根拠をもって自分の考えを述べることを育てていきたと考えています。

【算数】「数と計算」については、朝のモジュールタイムの効果もあり、比較的に高い正答率を示していましたが、「量と測定」「図形」「数量関係」については、課題がみられました。3年生以降は習熟度別少人数授業を行い、個に応じた指導を行っています。土台となる基礎学力が身につくよう取り組みをすすめています。

○本校の児童は学習に対する意欲が高く、何事にも積極的に挑戦しようという態度が身についています。また、ものごとを最後までやり遂げる、学級みんなで協力して何かをやり遂げるなど、あきらめずにやり遂げることができ、

○今後は授業で身につけた知識をいかに定着させるかが課題です。家庭と連携しながら自主学習をする習慣を定着させるよう取り組んでいくとともに、放課後や長期休業を利用しての補充学習にも計画的に取り組んでいきたいと思います。

※全国・大阪市の平均についてはP10参照

3学期には、なわとび集会を実施し、体力向上を図ってきました。

さらに、各学年・学級ごとに、休み時間にみんなで遊ぶ機会を設け、運動するようにしてきました。

その結果、様々な運動に取り組む姿が見られるようになり、休み時間には運動場で遊ぶ児童が増えました。

4年間の体育で研究してきた実践を継承しつつ、体力向上の取り組みをしていきます。

※全国・大阪市の平均についてはP10参照

学校行事

- 4月 入学式・対面式・地区別児童会（集団下校）・家庭訪問
- 5月 春の遠足・スポーツテスト・焼却工場見学（4年）・学習参観
- 6月 一泊移住（5年）・避難訓練・環状線一周（3年）・プール開き・学習参観
- 7月 修学旅行（6年）・期末個人懇談会・たてわり大掃除・夏のプール水泳・図書開放・学習会
- 9月 避難訓練・プール参観
- 10月 運動会・秋の遠足・小さなたび（2年）
- 11月 人権デー・秋さがし（1年）・読売新聞見学（5年）・大阪市探検（6年）・学習参観
- 12月 期末個人懇談会
- 1月 避難訓練・矢田西子どもフェスティバル
- 2月 大阪市立科学館見学（4年）・学習参観・懇談会
- 3月 卒業を祝う会・卒業式



ラグビー部

4年生以上の希望者を対象に、ラグビー部の活動を早朝と放課後に行っています。ラグビーとは、ラグビーからタックルなどの接触プレーを取り除いた小学生でも安全にできるラグビーです。活動の中では体力や技能の向上はもちろんのこと、あいさつや言葉遣い、なかまと協力することの大切さなど、生活態度や精神面での成長もみられます。子どもたちの技能も上達しており、ラグビー部は、3年連続、大阪府代表として近畿大会に出場しました。



家庭・地域との連携

矢田西小学校区教育協議会「はぐくみネット」では、教職員、家庭、地域の方と連携してさまざまな取り組みを行っています。子どもたちの登下校を見守る「見守り隊」の活動や、地域のお年寄りの方と交流する「敬老交流会」、地域のみなさんで花火を鑑賞する「矢田西ふれあい花火大会」を行っています。

また、地域の方をゲストティーチャーに招いて、「むかし体験学習」や地域の伝統野菜である「田辺大根」を植えて収穫する活動、また「田植え・稲刈り体験」を行っています。



小中一貫教育

6年生が中学校へスムーズに進学できるように、中学校の先生による授業、部活動の見学、体育大会の参観の3つの交流行事を行っています。

これらの行事を通して、中学校への進学に希望を持たせ、不安感が軽減できるようにしています。

また、教員間の連携も行っています。相互に授業を参観したり、学力調査の結果をもとに課題を分析したりしています。小中一貫した教育が展開できるよう努めています。



人権デー

11月に人権学習に関わる内容での学習発表「人権デー」を行っています。世界の文化や風習、身近な友だちとの関係まで、様々な場面や場所における人権課題について知ることから始まります。子どもたちが知ったことをもとに、興味・関心に合わせて自ら調べたり、自分の暮らしと比較したりしながら、今の自分を見つめ、これからの過ごし方について考える学習につながります。

自分の思いや考えを、大勢の前で表現する機会はなかなかありません。はずかしかったり、緊張したりする中で発表することは、子どもたちにとって大きな自信へとつながっています。



英語モジュール学習・ワールド週間

本校では、これまでの英語教育の深化・充実を図るため、今年度から新学習指導要領に基づき、5・6年は70時間、3・4年は35時間の授業を行っています。合わせて、昨年度から取り組んでいる朝のモジュールタイムを活用した15分間の英語学習にも週1回取り組んでいます。新教科書や英語DVD教材「DREAM」を使用して、歌や物語、リズム遊びを通して楽しく英語の音や文字



にふれ、様々な英語表現に慣れ親しんでいきます。

また多文化共生教育を推進するため、学期ごとに1回ずつ、ワールド週間を設定し、世界の国々の衣装や楽器にふれたり、外国の絵本やDVD、絵カードを使用して外国の文字や発音にふれる体験を行っています。世界の国々に興味を持ち理解を深めるとともに、あらためて自国の文化にも興味を持ってもらいたいというねらいがあります。